

序 文

本書は、国連アジア極東犯罪防止研修所の定期出版物であるリソース・マテリアル・シリーズに関し、その初めての邦訳版として刊行するものです。

当所は、1962年の設立以来、犯罪予防や刑事司法に関する国連の取組を踏まえながら、発展途上国の刑事司法実務家を対象とした国際研修の実施などを通じて、国際的な刑事司法制度の発展と相互協力の強化に取り組んできました。国際研修においては、客員専門家や研修参加者により、研修テーマに関する国際的動向や専門的知見、各国の制度・実務についての論文が作成され、これらは、研修テーマをめぐる討議を実り豊かなものとし、研修効果の向上に大きく貢献してきました。リソース・マテリアル・シリーズは、こうした資料の掲載媒体として、1971年の第1巻の刊行以来、当所の国際研修で得られた知見の国際的発信において重要な役割を果たし続けてきた、歴史ある出版物です。

リソース・マテリアル・シリーズ第1巻の刊行から50年を経て、国際社会は今、法の支配といった普遍的な価値の浸透に向け、一層の取組を必要としています。2021年3月には、第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コンGRESS）が開催され、国際社会が直面する刑事司法分野における様々な課題について議論が行われました。その議論の成果は、京都コンGRESSの成果文書「持続可能な開発のための2030アジェンダの達成に向けた犯罪防止、刑事司法及び法の支配に関する京都宣言」（京都宣言）に結実し、今後、国際社会が犯罪防止・刑事司法の分野において取り組むべき活動の方向性が示されたところです。

当所においては、こうした国際的な動向を踏まえ、活動の充実に努めているところですが、京都宣言においては、法の支配の尊重に基づく法遵守の文化を浸透させるために必要な価値観、技能、知識を市民に向けても提供していくべきことが謳われています（パラグラフ59）。当所が国際研修の成果物としてリソース・マテリアル・シリーズに掲載してきた資料は、刑事司法をめぐる国際的な動向や課題状況について理解を深めていただく上で、多くの有用な情報を含んでいますが、その資料価値にもかかわらず、掲載論文が全て英語であることから、日本の読者が簡便に参照できる資料とは言い難かった面があります。そこでこの度、日本国内の刑事司法に携わる政策立案・実務関係者や研究者、更には学生など幅広い読者に、当所の活動を通じて蓄積された世界の刑事司法制度に関する豊富な情報に触れていただけるよう、邦訳版の刊行を企画した次第です。こうしたねらいを込めて、リソース・マテリアル・シリーズ邦訳版のタイトルについては、「世界の刑事司法」としました。

邦訳版第1巻の内容としては、全体の分量も考慮し、最近刊行されたリソース・マテリアル・シリーズ113巻（2022年3月発刊：第23回汚職防止研修、第175回国際研修、第176回国際研修の資料を掲載）及び114巻（2022年10月発刊：第177回国際高官セミナー、第1回包摂的社会研修、第178回国際研修の資料を掲載）の掲載論文の中から、テーマや地域

的バランスなども考慮しつつ、日本国内において参照していただく意義が高いと考えた論文11本を選定して日本語に翻訳しました。さらに、国際研修における論文以外にも、刑事司法に関する国際的な資料を翻訳して掲載することも読者にとって有意義であると考え、本巻においては、2022年9月に当所と協力覚書を締結した欧州保護観察連合（Confederation of European Probation）がその発刊に関わった“Probation. Why and how?”について、その著者の許可を経て、翻訳・掲載することとしました。同資料は、欧州各国の保護観察制度の構築・向上に資するために保護観察に関する高度な知見を有する研究者らによって作成されたものであり、保護観察制度のエッセンスが凝縮されています。

近年、国際社会で刑事司法分野が抱える課題は複雑化しているとともに、その効果的な対応に向けて、国際協力も一層緊密になってきています。これに呼応し、当所が国際研修等の活動を通じて触れる情報も、広範で、専門的な内容を多く含むようになってきていることから、こうした情報について、翻訳して国内で情報発信をしていく価値は今後益々高まっていくものと考えています。本書を通じて、刑事司法に関する国際的な知見が日本国内で広く周知され、読者の皆様それぞれの立場で活用されることを期待するとともに、翻訳や編集方法を含め、本書の内容については、読者の皆様から忌憚のない御批判、御指導を頂ければ幸いに存じます。

国連アジア極東犯罪防止研修所長

森永太郎